



議長あいさつ



宮前区地域教育会議
議長 篠澤 惺子

「コロナ禍」の活動は既に3年経過します。どの会議も、感染防止を考慮しながら開催し、昨年6月9日の「総会」にこぎつけました。

今年度もコロナ感染対策を原則とし、議長会議を4回・運営委員会を8回・役員会を10回開催し、それに伴い各部会でも多くの話し合いをもちました。コロナ感染対策でリモート会議も取り入れました。地教の活動は、人が集まって成り立ちます。その意味でコロナは、極めて難しい状況です。令和5年度こそ…、普通の会議を開催したいと願っています。今後ともよろしくお願いいたします。

「21世紀の川崎の教育を創造する研究会(21研)」の 意見交流会が開催されました



2022年21研の意見交流会が開催されました。宮前区のPTA・地域住民・教職員の代表者が参加し、「川崎市の学校に在籍する児童・生徒の居場所について」というテーマで話し合いました。この分科会は、はじめてのオンラインによる開催でしたが、各グループに分かれて活発な意見の交流が行われました。交流を通して、子どもたちの居場所づくりや、保護者・地域・教職員のつながり、公共施設やフリースクールを詳しく知り活用していくことについて、改めてその大切さを感じる時間となりました。

21研に参加して

コロナ禍となって以来、3年ぶりの開催となった21研。20分科会はオンラインとなりましたが、「子どもたちの居場所」をメインテーマに教職員・PTA・地域住民が活発に意見交換をし、そこには新たな発見や情報があり、立場は違えど「子どもたちへの想い」は同じであるということを確認できました。また、「議論する」ということの大切さ、素晴らしい時間も改めて感じられ、素晴らしい時間を過ごすことができました。

宮前区地域教育会議 副議長 宮本 太一

コロナ禍で中止となっていた21研の第20分科会が、10月12日に3年ぶりに開催されました。今回は全市統一のテーマ「川崎市の学校に在籍する児童・生徒の居場所について」を討議いたしました。参加者は保護者・地域住民・教職員の皆様でした。地域教育会議中学校区連携交流部会では、委員を通じ各中学校区の皆様に参加して頂くよう呼びかけを行いました。

討議はオンラインで実施されましたが、参加された皆様の熱い思いが結実した充実した内容でした。

参加者の皆様にはYouTube上で、川崎市内で子ども達の為に活動されているお二人の発言をまとめたビデオを事前に見て頂きました。討議すべき内容を熟考された上で討議に臨まれたことも、白熱した議論の一因ではなかったかと考えております。

宮前区地域教育会議 中学校区連携交流部会 部会長 遠藤 養子